

衛生士シンポジウム 1

見える！伝える！マイクロスコープ下での歯周初期治療

高橋 規子
高田歯科（兵庫県）

マイクロスコープの国内販売台数は年々増加し続けている。それに伴い、歯科医師が治療に使用するだけでなく、歯科衛生士が使用するケースも増えつつある。当院でも約2年前から歯科衛生士用マイクロスコープを導入し、日常の臨床で拡大視野の施術を行なっている。

マイクロスコープを使用することで得られる大きなメリットは、術者が見た拡大視野を記録し、その映像資料を患者や歯科医師と共有できることである。今回のテーマである歯周初期治療においては、今まで見せることが出来なかった“歯周ポケット内の情報を共有できる”という点が従来と大きく異なる。

一般的に歯周初期治療では施術前に患者に対して歯周炎の説明を模型やイラスト、口腔内写真、エックス線写真を使用して行うことが多い。また、施術後に除去した小さな歯石の欠片を見せることで施術内容を説明していた。このように従来型の歯周初期治療では患者に伝えられる情報量が限られていることで、十分な理解が得られず治療期間中に来院が途絶えた経験もある。

しかし、マイクロスコープを使用する事で従来とは異なったアプローチが出来ると考えている。マイクロスコープでは、最大20倍に拡大された歯周ポケット内の歯石、セメント質剥離、破折、プラークなど実際に患者の口腔内で起こっている現状をありのまま記録することができ、それらの情報は、施術前の動機付けや施術後の変化を伝える際に使用することも可能である。また、やむを得ず残ってしまった難治性歯周ポケットでは、その原因を映像資料として患者・歯科医師と共有し、その後のリスク管理へスムーズに移行することができる。

このようにマイクロスコープで得た映像資料を歯周初期治療に使用すると患者の理解力が高まるため、言葉で説明する時間が軽減する。また、イラストや模型では伝えきれないリアルな情報は、確実に患者の心に響く手応えを感じている。

今回は、マイクロスコープ独自の視点を理解して歯周治療初期治療を行う注意点、術前術後のチェック方法、また、様々なインスツルメントで検査・施術を行った際に美しく記録を取り患者に伝える方法を解説していきたいと思う。

2002年 兵庫歯科学院専門学校卒業

2002年 歯科医療機器販売 ササキ株式会社 神戸支店入社

2008年 ササキ株式会社退社

2010年 フリーランス

2013年 NDL株式会社 公認インストラクター

2014年 高田歯科 非常勤